

平成 27 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	京都大学大学院	職名	博士課程	40,000 円
氏名	笥 菜奈子	メール アドレス	kanainaco@gmail.com	
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）				
20 世紀アメリカ美術における装飾性の系譜 —美術史におけるジャクソン・ポロックの新たな位置づけ—				
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）				
<p>助成金を使用して、ニューヨーク市に 2 週間滞在し、ポロック＝クラスナー・ハウス&スタディセンターおよびホイットニー美術館、その他にて調査を行った。助成金の主な使用用途は以下の通りである。</p> <p>渡航費：16,000 円（京都・ニューヨーク間） 滞在費：10,000 円 現地交通費：4,000 円（ニューヨーク・イーストハンプトン間など） 資料購入費：3,000 円 機材購入費：7,000 円</p> <p>滞在期間の始めに、まずニューヨーク州イーストハンプトンに位置するポロック＝クラスナー・ハウス&スタディセンターにて調査を行った。同センターは、ポロックと妻であるリー・クラスナーがかつて住居としていた場所であり、現在は両者のアーカイヴの保存・研究を行う機関となっている。本研究では、センターや土地の特徴、ポロックの交遊関係などについて学芸員に話を聞いたり、資料を通して調査したりするとともに、ポロックの蔵書の調査、アトリエの使用状態、画材の確認などを細かに行った。その上で、教会建築計画にまつわる素描や書簡などの資料の調査を行い、また同計画に携わった他の芸術家たちの情報についても得ることができた。また、1950 年に写真家ハンス・ネイムスによる、ポロックの制作過程を記録した映像・写真を入手した。本記録はネイムスによって編集された上で、1951 年に《Jackson Pollock 51》(1951) と題されて発表されたものであり、まるでダンスをするかのようにキャンヴァスに絵具を撒いていくポロックの姿は、アラン・カプロウらを始めとする後のパフォーマンス・アートに大きな影響を与えている。今回の調査では、一般には未公開の映像部分や写真を入手することができた。国内で同資料を扱った研究は未だなく、この資料の解析が今後の重要な課題となる。</p> <p>イーストハンプトンでの調査を終えた後は、ホイットニー美術館にてポロックの作品《No. 27, 1950》(1950 年)、ニューヨーク近代美術館フィルムセンターにてポロックの肉声記録（一般公開なし）の調査を行った。またポロックのみならず、パターン&デコレーションと呼ばれる装飾的な作品を制作する作家たちの調査を行うため、シティコープ・ビルディングにて、ヴァレリエ・ジャウドンの《Trio I》《Trio II》《Trio III》(1998) の調査を行った。さらにロバート・クシュナーにインタビューを行い、P&D の初期から現在に至るまでの活動の内実や、装飾が重要視された理由について、さらに彼が自身の作品に日本の文字や装飾的要素を取り込む理由などについて話を聞くことができた。P&D については国内での調査が未だ進んでおらず、こうした成果は有意義であると考えられる。</p> <p>以上の調査に基づき、成果の一部を下記の学会にて口頭発表した。今後は、発表内容を論文化するとともに、P&D とポロックの関係性を中心にさらなる研究を行っていく予定である。</p>				
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）				
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)	
笥菜奈子	「ジャクソン・ポロックの作品の 「装飾性」—20 世紀美術史への新 たなる位置づけ」	第 68 回美術史学会全国大会 (於：岡山大学)	平成 28 年 6 月投稿予定	